

チョムスキーと生成文法

東京外国語大学大学院国際日本学研究院
准教授 中村彰

ノーム・チョムスキー(Noam Chomsky)

- ・1928.12.7 米国ペンシルバニア州フィラデルフィアで生まれる。
- ・1945 ペンシルバニア大学に進学し、言語学をゼリグ・ハリス(Zelig Harris)に師事。
- ・1955 *The Logical Structure of Linguistic Theory* (1975年に出版)を元にした *Transformational Analysis* 「変形分析」という学位論文により、ペンシルバニア大学から博士号取得。同年、MIT (マサチューセッツ工科大学) で教鞭を執る。
- ・1957 *Syntactic Structures* (『文法の構造』) を出版。

それまでの言語学の主流：

アメリカ構造主義言語学：与えられた音声データから一定の手続きに従って音韻論→形態論→統語論と記述を進める。しかし実際には統語論(「文法」)にはほとんど進まなかった。

アメリカ先住民の言語分析などで成果。

アメリカ構造主義言語学の背景にある考え方：行動主義(behaviorism)：人間の行動をすべて刺激とそれへの反応が一般化したものと捉え、こころ(mind)の存在を否定。

「言語」とは何か？ 二つの違う考え方。

(1) 日本語やインドネシア語の様な個別言語の話されている言語社会の中で生み出される可能性のある発話の総体。→E-言語 (External/Extensional)

(2) 日本語やインドネシア語のような個別言語の母語話者が発話(文)を作る時、頭の中に持っている言語知識。→I-言語 (Internal/Intensional)

言語知識とは？

学生 が 先輩 に 会った

- (3) a. 学生 が 先輩 に 会った。
- b. 学生 に 先輩 が 会った。
- c. 先輩が 学生 に 会った。
- d. 先輩 に 学生 が 会った。
- e. *が 先輩 に 学生 会った。
- f. *会った が に 学生 先輩。
- g. *学生 に が 会った 先輩。

理論的には120の組み合わせが可能だが、正しい日本語は(3)a~dの4つだけ。

- (4) a. 私はラーメンを食べた。
 - b. *私はラーメンが食べた。
-
- (5) a. 私はラーメンを食べたい。
 - b. 私はラーメンが食べたい。
-
- (6) a. 小池さんはいつもラーメンを食べたがっている。
 - b. *小池さんはいつもラーメンが食べたがっている。
-
- (7) a. 私は山田さんに会いたい。
 - b. *私は山田さんが会いたい。

構造主義言語学ではE-言語を研究の対象とする。

生成文法ではI-言語を研究の対象とする。

それまでの一般的な言語観：言語は人間が伝達のために用いるコミュニケーションの手段。故に、言語研究は言語の使い手の意図や感情、使用される場面、などから切り離して行うことは出来ない。（きわめて人文科学的な考え方。）

チョムスキーの言語観：言語の本質は必ずしも伝達にあるのではなく、言語学の対象は言語そのものというより、むしろ言語を生み出す重要な要素である「文法形式」である。文法形式を究めていくことにより人間の精神（＝頭脳）の本質に迫ることが可能。

・心／脳は多くの機能を持った一つのものではなく、いくつかのモジュールからできている。

→モジュールとは何か？ 例えば「視覚」や「記憶」のような個別の機能を持ち、心／脳の他のモジュールとお互いに作用しあって働く、心／脳を構成する認知システム。その一つのモジュールが言語機能。言語機能はヒトに固有の遺伝的な、生まれながらに持っているもの。

生成文法の三つの課題

- (8) i. 言語知識の内容はどのようなものか？ →生成文法
- ii. 言語知識はどのように獲得されるのか？ →言語獲得
- iii. 言語知識はどのように使用されるのか？

生成文法のやり方：言語をI-言語としてとらえ、理想化を行い、仮説を提案し、内観を用いた実験でデータをとり、理論が正しいかどうかを調べる。＝自然科学のやり方と同じ。

言語獲得の特徴

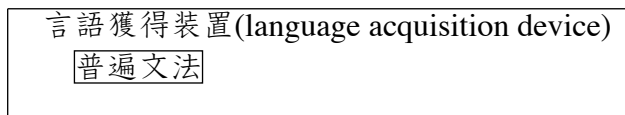
- (9) a. 獲得のスピードが速い。Cf. 算数
- b. もとになるデータが不備でも獲得出来る。
- c. 一般に誰にでも獲得可能である。
- d. ヒト(Homo sapiens)という種に特徴的である。
- e. 人種や民族に関係なく獲得出来る。
- f. 思春期までに獲得しなければならない。「ジニー」

プラトンの問題：（言語獲得の最中の）幼児は経験できることが非常に限られているのに、なぜ経験したこと以上のことを知ることができるのだろうか？

人間は、生まれた環境が千差万別でも、生まれてから数年で、母語を習得できる。その間に受ける環境的・言語的刺激は限られたものである。この刺激の貧困という制約があるにもかかわらず、創造的で豊かな内容を持つ言語知識を獲得できるのはなぜか？

ヒトは誰でも生まれながらに脳に普遍文法(Universal Grammar)を持っている。幼児は経験をもとに文法を作り上げていく。

第一次言語資料



個別言語

普遍文法がどうなっているのかを調べるのが生成文法の一つの大きな目標。

チョムスキーのもう一つの顔

アメリカ政治を強く糾弾する政治活動家。

オーウェルの問題：データが沢山存在するのに、正しく理解できないのは何故か？

ジョージ・オーウェル (George Orwell) (1903-1950) 英国の小説家。

『1984年』 未来の徹底的な管理社会

平和省：軍事を司り、永久に戦争を続けるための政府機関

真理省：国民に対するプロパガンダを行い、歴史や記録を改ざんする政府機関

豊富省：徹底した統制経済と労働管理により国民から搾取し、戦時経済を維持する政府機関

アメリカではベトナム戦争当時、マスメディアによるニュースの選択・提示のしかたのせいで、ベトナム戦争がアメリカの侵略戦争であるという視点が殆どの人に欠落していた。

「思考統制」がマスメディア（だけでなく知識人、特に大学教員も加担した）の「情報操作」によって行われている。知識層の体制的腐敗を強く批判。

アメリカが正義のためと称して外国で戦争を行う。それにたいしてマスメディアや学者が理論的援護を行い、国民の多くがそれを鵜呑みにする。